

経営比較分析表（令和6年度決算）

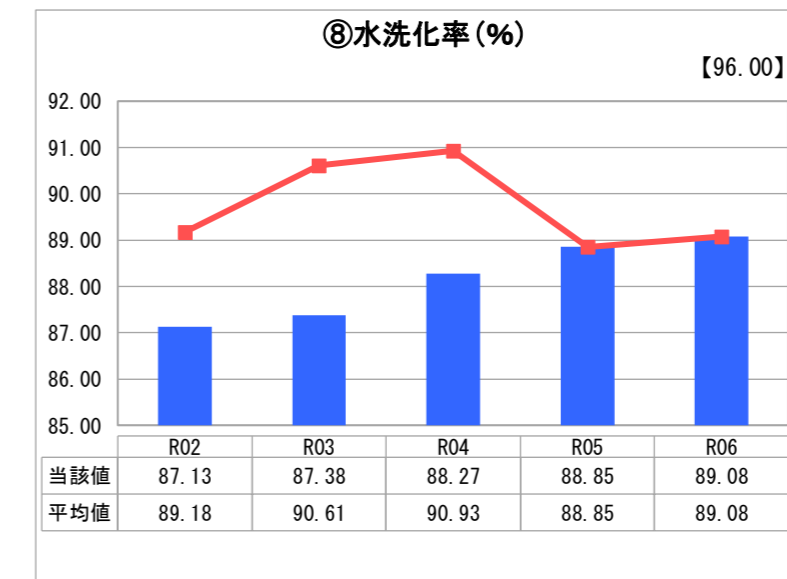
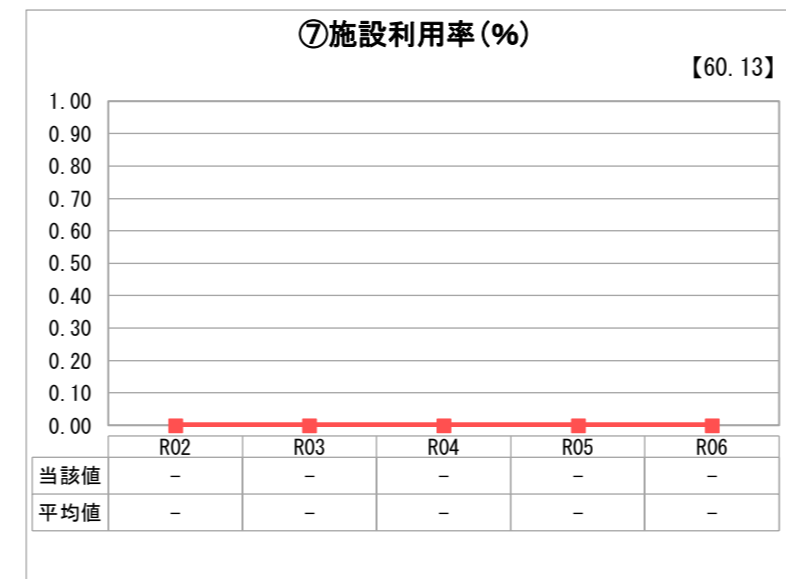
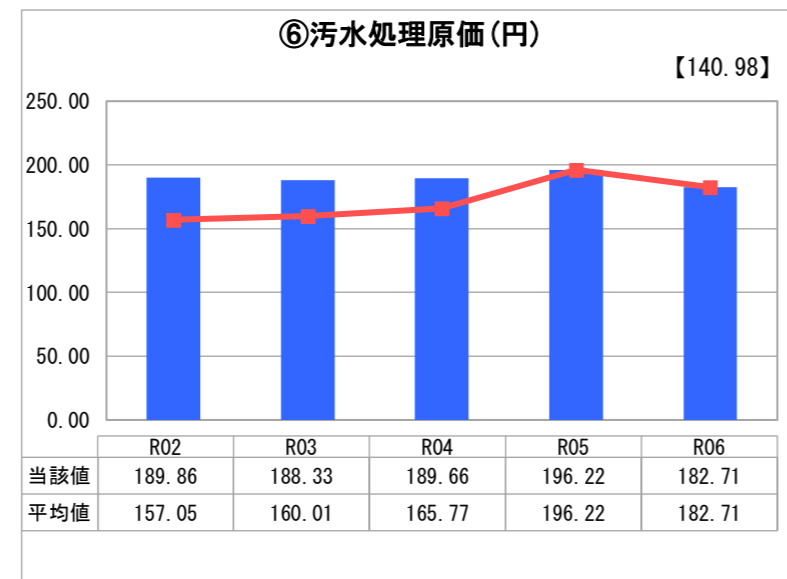
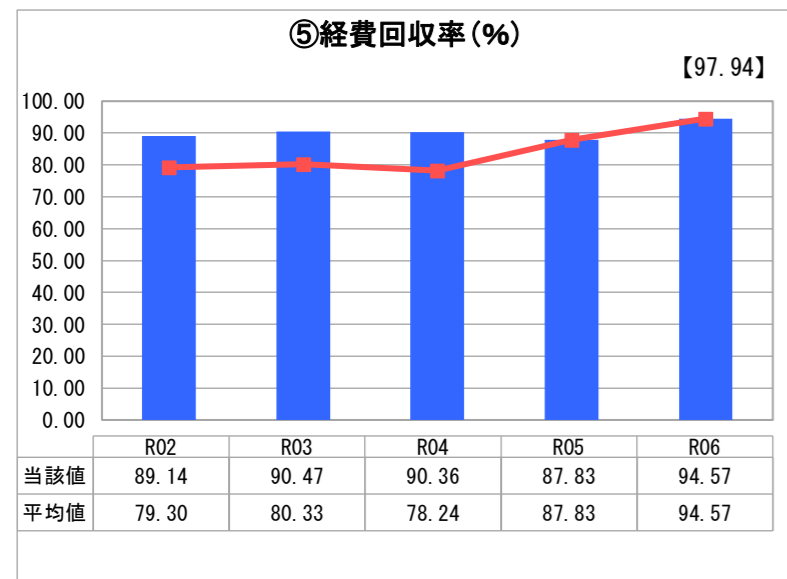
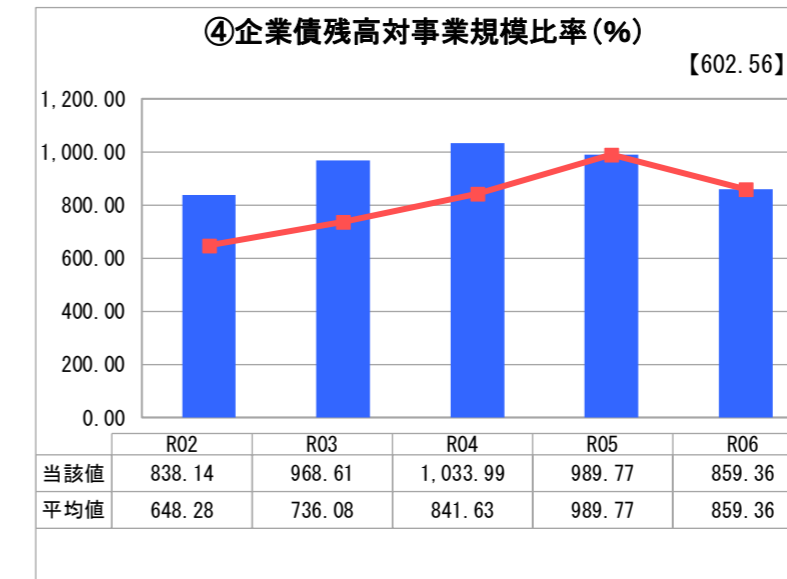
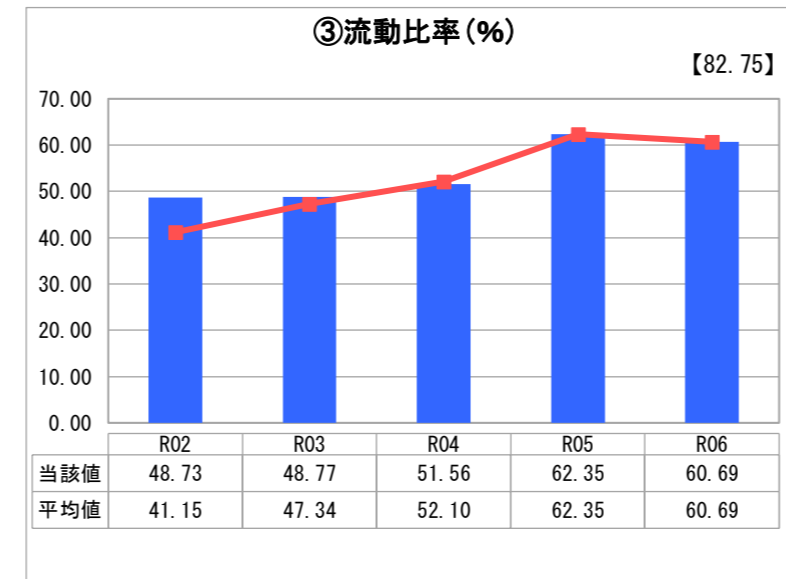
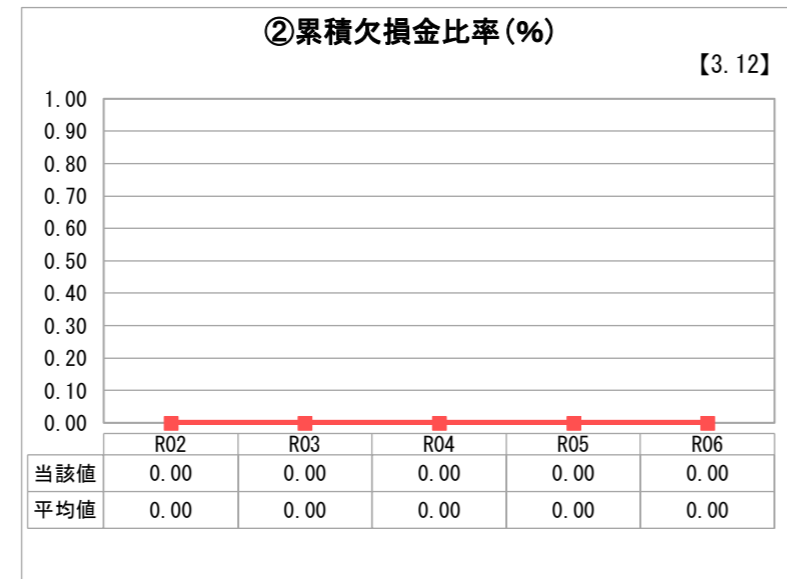
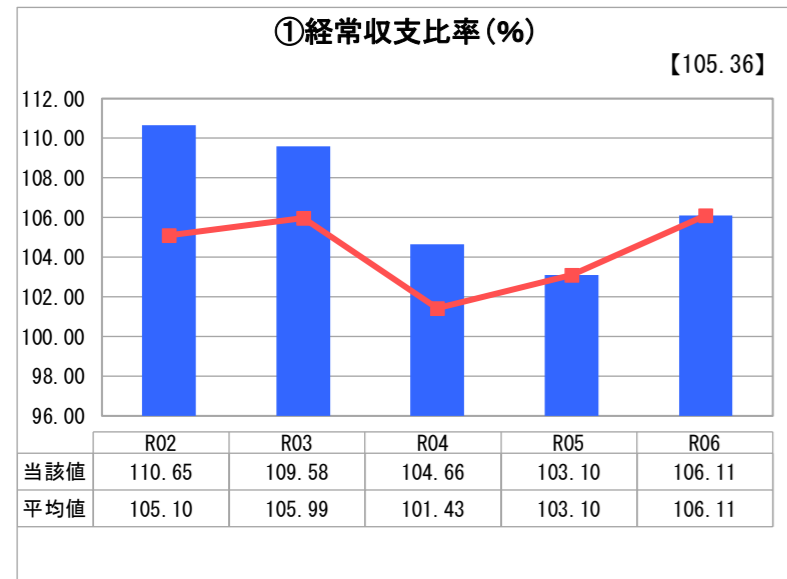
三重県 鈴鹿市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ac2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	52.72	64.84	89.70	3,025

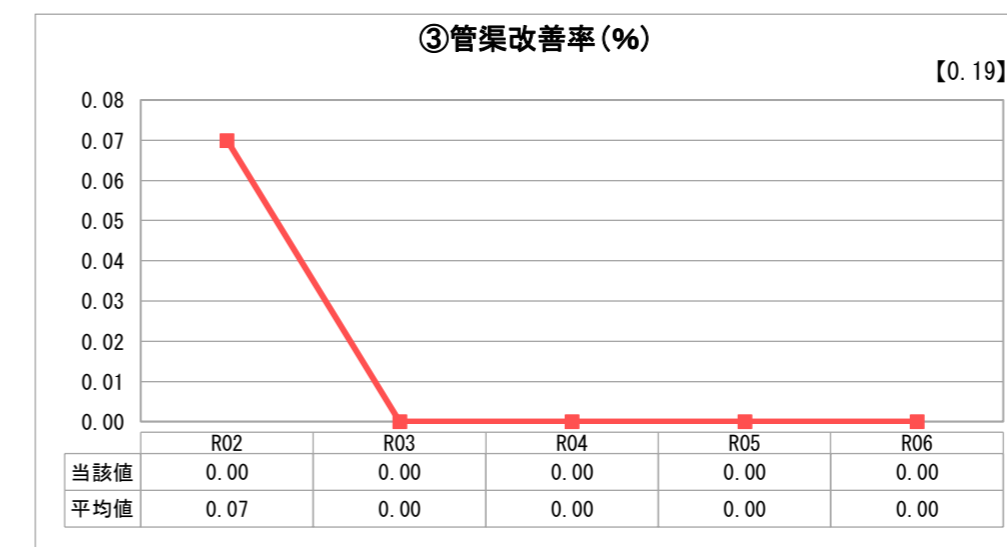
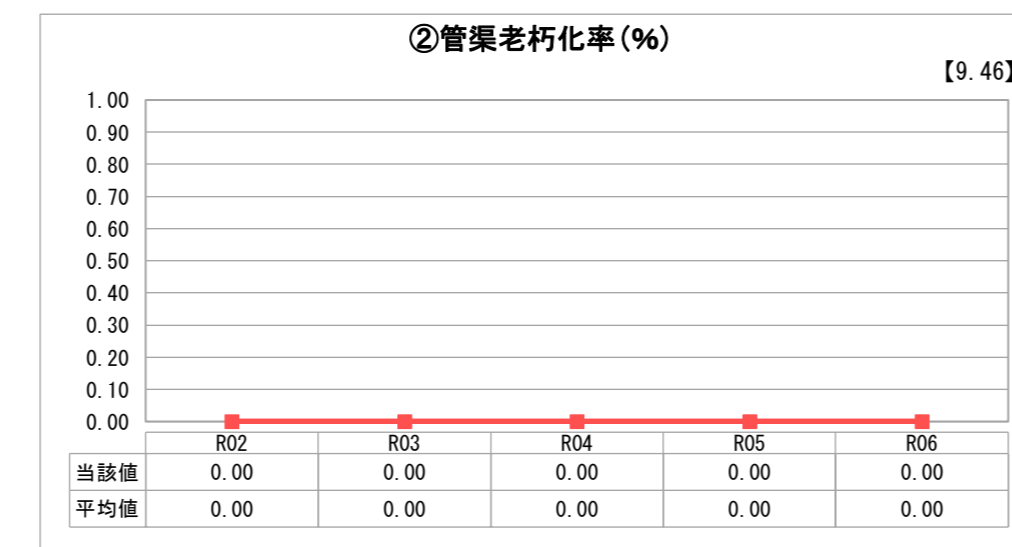
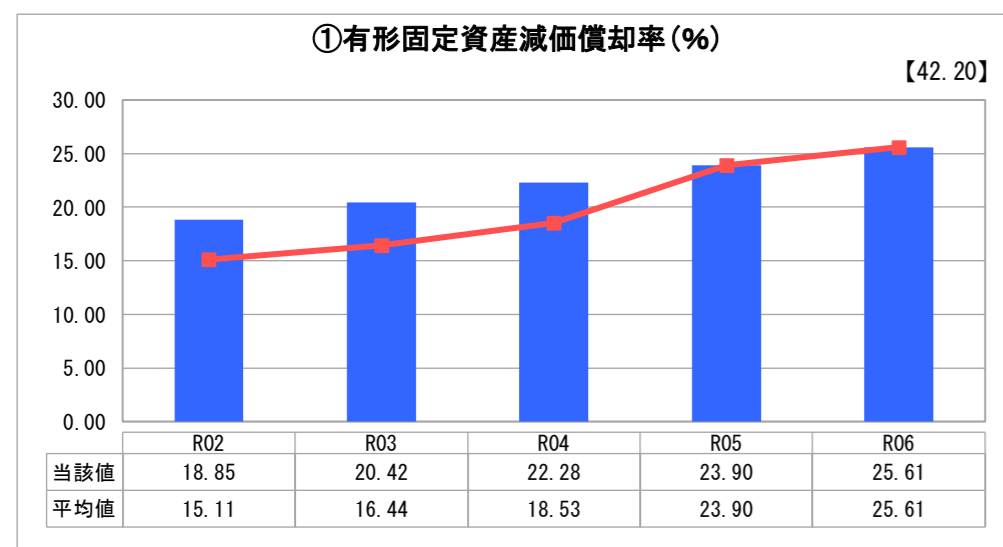
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
194,451	194.46	999.95
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
125,638	23.79	5,281.13

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、100%を上回っていることから黒字を示しており、前年度に比べても3.01ポイント増加している。また、累積欠損金が発生していないため、経営の健全性は保たれている。

流動比率は、100%を下回っていることから支払能力の改善が必要である。流動負債の大半は建設改良企業債であり、この財源により整備した汚水区域からの使用料収入が増加するよう普及率の向上に努めている。

企業債残高対事業規模比率は、前年度に比べ130.41ポイント減少しているが、令和8年度に整備が完了するまでは投資費用が必要なことから、適切な投資規模を分析した企業債の借入れが必要である。

経費回収率は、100%を下回っていることから使用料収入だけでは汚水処理費全額を賄うことができていない状況であり、一般会計からの繰入金に依存する経営となっている。

汚水処理原価は、前年度に比べ13.51円減少している。これは汚水処理費（資本費）の減少と年間有収水量の増加によるところが要因である。

水洗化率は、前年度に比べ0.23ポイント増加しているが、100%を下回っていることから今後も未接続世帯の解消に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

公共下水道の供用開始時期が、平成8年1月であるため、管渠施設等は法定耐用年数の半分にも満たないものが多く、老朽化は進んでいない状況である。

全体総括

当市の公共下水道事業は、令和8年度の完了に向けて整備を進めており、それまでは普及率とともに使用料収入も増加する見込みであるが、人口減少の加速といった社会情勢の影響を大きく受け、経営環境はますます厳しくなると予想される。

そのため、経営の基本計画である鈴鹿市上下水道事業経営戦略を令和4年度に改定し、投資計画の見直しや整備手法の最適化等の検討を行った。

今後も、この経営戦略の進捗管理を適切に行うことで、効率的に安定した経営を継続するよう取り組んでいく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。